

授 業 科 目		単 位			開講期		担 任 教 員					備 考		
		講義	演習	実験	前	後								
A 類	物理化学特論	2				○	教授 教授 准教授	博(工) 工博 博(理)	池 櫻 岩	原 井 倉	飛 忠 いずみ	之 光	複数担当科目	
	無機分析化学特論	2				○	教授 教授 教授	工博 Ph.D 博(工)	井 小 引	川 出 地	学 芳 史	弘 郎	複数担当科目	
	有機合成化学特論	2				○	准教授	博(工)	赤 井	井 昭 二			複数担当科目	
	有機化学特論	2				○	教授 教授 教授 准教授	工博 理博 博(工) 博(工)	横 佐 岡 赤	澤 藤 本 井	勉 憲 専 昭 二	一 太郎		複数担当科目
	生命分子化学特論	2				○	教授	薬博	小 野	晶				
	有機天然物化学特論	2				○	教授	理博	佐 藤	憲 一				
	高分子化学特論	2			○		教授	理博	金 仁 華					
	高分子物性特論	2			○		教授	博(工)	池 原	飛 之			休講	
	工業物理化学特論	2			○		准教授	博(理)	松 本	太				
	無機結晶化学特論	2												休講
	フロンティア軌道特論	2				○	教授	工博	横 澤	勉				
	現代工業化学特論	2				○	講師	博(工)	山 田	保 治				
	分子工学特論	2			○		教授	Ph.D	小 出	芳 弘				
	センサー材料特論	2											休講	
	触媒化学特論	2				○	講師	理博	内 藤	周 弼			休講	
	光化学特論	2				○	教授	工博	櫻 井	忠 光				
	先端科学特論	2												休講
	配位化学特論	2				○	教授	博(工)	引 地	史 郎				
	環境化学特論	2			○		教授	工博	井 川	学				
	分子生物学特論	2											休講	
	遺伝子工学特論	2			○		講師	農博	大 森	俊 雄				
	界面化学特論	2			○		講師	工博	川 口	春 馬				
	機能物質特論	2			○		講師	工博	上 田	充				
材料工学特論	2			○		講師	博(理)	原 亨 和						
応用化学特論	2			○		教授	工博	堀 久 男						
応用化学特論	2				○	教授	工博	上 田 涉						
有機金属化学特論	2				○	教授	博(工)	岡 本 専太郎						
有機機能材料特論	2				○	教授	工博	亀 山 敦						
応用化学輪講		1			○	{教授 								

授 業 科 目	単 位			開講期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	実験	前	後		
C 類	応用数学	2			○	講師 理博 酒 井 克 郎	
	応用数学	2			○	講師 理博 酒 井 克 郎	
	応用物理	2			○	講師 白 井 達 也	
	応用物理	2			○	教授 理博 田 村 忠 久	
	実践科学技術英語	1			○	講師 田 沼 智 子	
	実践科学技術英語					講師 南 田 孝 子	
	実践科学技術英語	1			○	講師 田 沼 智 子	
	実践科学技術英語					講師 南 田 孝 子	
D 類	学外研修 A			2	○	専任教員全員	
	学外研修 B			2	○	専任教員全員	
	他研究科および 工学研究科他専攻の科目						

印は選択必修科目。

「実践科学技術英語」「実践科学技術英語」は、2013年度以降の入学者に適用。

指導教授

学生は所属する専攻の科目のうちから演習の指導を受ける1科目(自己の最も専門に研究しようとする科目)を選び、研究科委員長の承認を得て、その科目担当の教授によつて研究全般の指導を受けること。

この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。

履修方法

1. 指導教授の指導によつて、30単位以上を履修すること。その内訳は次のとおりとする。

(1) A類から22単位以上(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、26単位以上)。ただし、[物理化学特論][無機分析化学特論][有機化学特論]のうち4単位以上を含める。

(2) B類から8単位(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、4単位)。

(3) C類およびD類の取得単位は8単位までA類に換算することができる。

(4) また、他大学大学院(神奈川県内の大学院間の単位互換協定校)の授業科目を10単位まで履修することができる。修得した単位は、C類およびD類と合わせて8単位まで、A類に換算することができる。

(5) A類中自己が最も専門に研究しようとする科目の講義は必修とする。なお、B類のその科目に関する輪講、特別実験は必修として履修するものである。

2. 「学外研修A」「学外研修B」の履修については、担当教員に確認すること。

3. 長期履修制度に関する所定の手続に従い申請等を行うことにより、修業年限を3年または4年とすることができる。

4. 単位は、1年次修了までに(長期履修が認められた者については、修了前年度までに)20単位以上を修得すること。

5. 本研究科の指定する方法で、修士論文の中間発表を行わなければならない。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年次以上(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2. 修士論文の審査を申請し得る者は、博士前期課程第2年次以上(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)に在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

授 業 科 目	単 位		開講期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	前	後		
分子物性工学特殊研究	2	2	○		教授 工博 上 田 渉	
	2	2	○		教授 工博 櫻 井 忠 光	
分子物性工学特殊研究	2	2		○	教授 工博 上 田 渉	
	2	2		○	教授 工博 櫻 井 忠 光	
エネルギー変換化学特殊研究	2	2	○		教授 博(工) 引 地 史 郎	
	2	2	○		准教授 博(理) 松 本 太	
エネルギー変換化学特殊研究	2	2		○	教授 博(工) 引 地 史 郎	
	2	2		○	准教授 博(理) 松 本 太	
高分子機能材料特殊研究	2	2	○		教授 工博 横 澤 勉	
	2	2	○		教授 工博 亀 山 敦	
	2	2	○		教授 博(工) 池 原 飛 之	
高分子機能材料特殊研究	2	2		○	教授 工博 横 澤 勉	
	2	2		○	教授 工博 亀 山 敦	
	2	2		○	教授 博(工) 池 原 飛 之	
生体分子工学特殊研究	2	2	○		教授 理博 佐 藤 憲 一	
	2	2	○		教授 薬博 小 野 晶	
生体分子工学特殊研究	2	2		○	教授 理博 佐 藤 憲 一	
	2	2		○	教授 薬博 小 野 晶	
無機材料・分析化学特殊研究	2	2	○		教授 工博 井 川 学	
	2	2	○		教授 Ph.D 小 出 芳 弘	
無機材料・分析化学特殊研究	2	2		○	教授 工博 井 川 学	
	2	2		○	教授 Ph.D 小 出 芳 弘	
資源物質化学特殊研究	2	2	○		教授 工博 横 澤 勉	
	2	2	○		教授 博(工) 岡 本 専太郎	
	2	2	○		教授 理博 金 仁 華	
資源物質化学特殊研究	2	2		○	教授 工博 横 澤 勉	
	2	2		○	教授 博(工) 岡 本 専太郎	
	2	2		○	教授 理博 金 仁 華	

履修方法

1. 学生は自己の最も専門に研究しようとする科目を選び、その演習を担当する教授から研究全般の指導を受けるものとする。
2. この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。
3. 学生は指導教授による演習を12単位、その他指導教授により専修科目または他の科目から8単位以上履修すること。

修了要件

1. 博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
2. 博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。